



振り返り、前を向き

23日の土曜日に保護者の方々との懇親昼食会があった。保護者の皆さんが共通しておっしゃっていたことの一つは、「一年は早かったですね」ということ。君たちも同じような感想をもっていることだろう。

4月に入学した当初は、「自分は先輩方と同じようにやってゆけるのだろうか?」「自分の前にはどれだけ大きな世界が広がっているのだろうか?」と不安に感じたに違いない。勉強はもちろん、その他にも行事やら部活やら委員会やらSSHやら、やらなければならないことが山ほどあって、そんな盛りだくさんの生活に、この一年間がどんな規模で自分に迫ってくるのか見当もつかず、途方に暮れた人もいるだろう。しかし、友だちと一日一日を楽しみながら(苦しみながら?) 過ごしていくうちに、振り返ってみれば、あっという間に一年である。そして、君たちの大きな目標である受験まであと2年もない…。

4月からの生活も、また慌ただしいものとなるだろう。その中で、日比谷での一日一日の重みをしっかり意識していかないと、今年も「アツという間」だったということになってしまうかも知れない。もちろん「アツという間だった」ということが悪いということではない。その感覚の中に、「これだけ充実した生活を送れた!」「今年はこんな成果を挙げられた!」といった「何か」が見つけれようような一年を送ってほしいと思うのである。今年一年の「アツという間」の内実を確かめて、それを4月からの生活に結びつけよう。

もう一つ、保護者の皆さんが共通に口にしていたのが、「もう一度4月からやり直せばねえ〜(笑)」ということ。こちらは、ちょっと苦笑まじりの諦め口調?である。

これまた同じように感じている諸君がいるに違いない。「4月に勉強をちょっと油断してしまったので…」 「もう一度数学の基礎を…」 「用言の活用を…」 と、いろいろなことが思い浮かぶかも知れないが、残念ながら時間は逆には進まない。この場合は、まず春休み中に「復習」をしっかりとやるのが大切だ。たくさんやろうと思っても、休みの期間は短いことから、その教科の中で自分がもっとも苦手だと思っているポイントに絞って復習することが成功の秘訣である。

一方、「不得意」という自己イメージを払拭して、4月からの新たな授業をがんばるといっても大切である。国数英に関しては「積み重ねの科目だから…」 と思うかもしれないが、積み重ねの科目だからこそ、2年生で学習した内容がちょっとでも理解できると、それが1年の時に不得意だった部分の理解に結びついて、それまでよく分からなかったことが分かるようになるということは往々にしてあるのである。(古文だと、助動詞をマスターしたら、いつの間にか用言の活用が分かるようになっていた、といった例がある)

*

何はともあれ、全員が無事? 2年生に進級だ。4月からまた新しい生活が待っている。WKWK・DKDKの毎日にしていこう!